

も使えるようになっており、多目的の利用に対応できます。また、アリーナは仕切りネットにより二つに分けて使用することもできます。大会や行事内容によっては、ドームと長根山総合運動公園を一体的な会場として使用することにより、ビックイベントの開催も可能となります。

アリーナでのスポーツ使用例を紹介しますと、

- ☆野 球 (両翼90m×中堅120m)
- ☆サッカー (64m×100m)
- ☆運動会 (1周300m、直線100m)
- ☆ソフトボール (2面)
- ☆ゲートボール (16面)

観客席は、ベンチ椅子の内野席三千五百席、人工芝の外野席一千五百席の計五千席が設けられ、アリーナを使うと一万人まで入場することができま。この内野席のうち一塁側、三塁側合わせて一千

三百席は、使用目的により自由に移動させることができる可動席になっています。

このほかドーム内の施設としては、大会役員室、審判室、放送室、救護室、更衣室、事務室、応接室、会議室、多目的室(三室)、場内監視スペース、スコアボードなどが設けられています。

ドームの特徴である屋根構造は、秋田杉の集成材で骨組みを造り、それに透光性に優れたガラス繊維布を二重に張ることによって、均一で安定した自然光を得ることができ、昼間の野球練習は照明なしで行うことができます。また二重膜の間に温風を送り、結露を防ぐと共に屋根の融雪にも配慮されています。

ドーム本体の西側には「貯留池」が設けられ、敷地内の雨水も流入するようになっています。夏季には池により自然冷却された涼風をドーム内に取り入れて換気効果を高めるほか、防火水槽としての機能も果たします。

## 7月着工、9年6月完成予定 周辺、アクセス道整備も実施

県が行うドーム本体の工事は、七月から着手し、十二月までは基礎工事、八年三月からは集材材による屋根工事に入ります。集材材による骨組みが終了すると膜張り工事が行われ、八年十二月下旬に

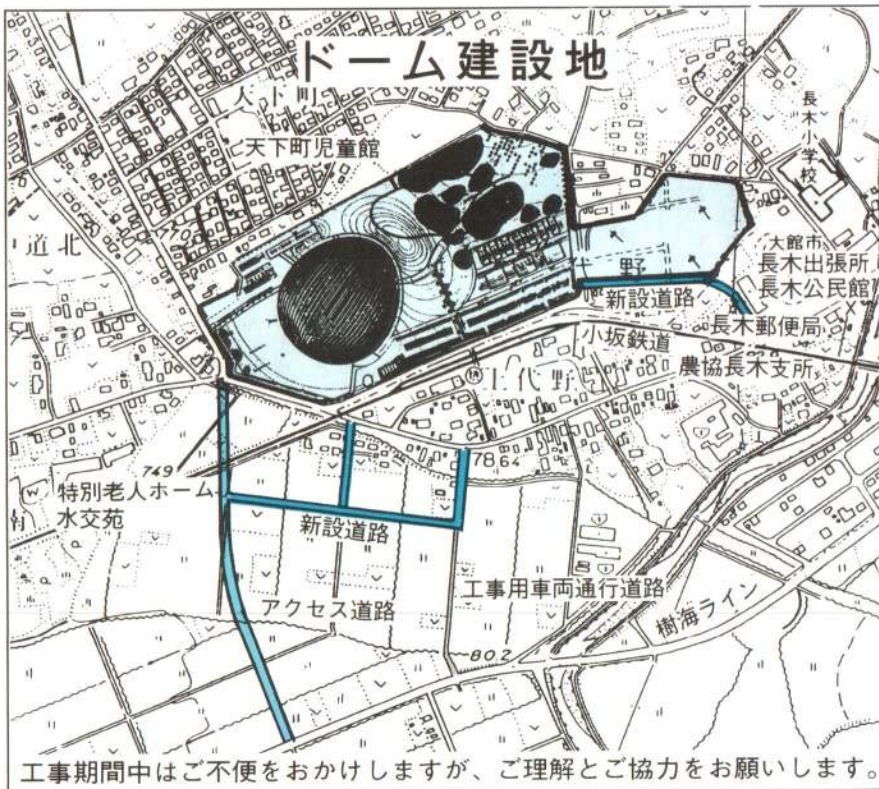
は外装工事が完了する予定です。このほかドーム本体周辺の外構工事も行われ、平成九年六月末に完成する予定です。

一方、市では、ドームの東側に市民の憩いの場となるパークセン

ターや敷地内の樹木を活かした仲らいの森、芝生コミュニティ広場、駐車場などを整備します。また、樹海ラインからドームに通ずるアクセス道路や周辺道路の整備も行います。

ドームへのアクセス道路工事は、今年度用地を購入し、稲の刈入れが終わるのを待って一部工事に入る予定です。八年度も引き続き工事を行い、九年三月には完了する予定です。

またパークセンター等については本年度で実施設計を行い、八年度から本格的に着工し、ドーム本体と同時に完成を予定しています。本体工事は今月から始まり、建築資材を搬入する工事用車両通行道路の安全確保については、万全の対策を取るようになっています。工事期間中は、市民の皆さんにご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をくださるようお願いいたします。



工事期間中はご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

## 幅広い利活用により 地域経済への 波及効果を期待

ドームは、天候に左右されることなく、幅広いジャンルに利活用できる施設です。冬期間でも雪のない大空間ができることになり、今までは考えられなかったいろいろなスポーツや遊び、行事等を行うことができます。

市民の皆さんをはじめ、周辺市町村の方々からも愛され、気軽に利用できるドームにしていくために、現在スポーツ、学校、芸術文化、観光、商工など、市内外の各種団体からなる「利活用推進部会」で、利活用策等を検討しているところです。

完成しますと、木造では世界最大級のドームが誕生することになります。ドームは地域活性化の拠点として、またスポーツ・レクリエーション振興と個性ある地域づくりに大きく貢献することはもちろん、地域経済への波及効果の面でも大いに期待できます。